

備前市 事務事業評価表

| | | | |
|------------------|--------------|--------------|--------------|
| 事務事業名 | 市議会調査事業 | コード | 06-01-09-05 |
| | | 担当課・係 | 議会事務局・庶務調査係 |
| | | 担当者 | 金井 和字 |
| | | 電話 | 0869-64-1803 |
| 事業実施期間 | 平成17年3月22日から | | |
| 総合計画 事業（政策）体系 | 大項目(基本目標) | 健全で自立したまちづくり | |
| | 中項目(基本施策) | 簡素で効率的な行政運営 | |
| | 小項目(施策) | その他管理事務(議会) | |

| | |
|-----------------|--|
| 事業について | |
| 目的 (何のために) | 市議会及び常任委員会の審議機能の強化と、議員の政策形成能力の向上を図り、住民自治の確立と地方分権時代に即した市政の実現に寄与する。 |
| 対象 (誰・何を対象に) | 市議会議員 |
| 内容 | 常任委員会の所管事項に係る先進地の視察調査、議員個人の調査研究に必要な経費(政務調査費)の一部補助、各種統計等の資料収集及び議会図書室の充実 |

| | | | |
|---------------|-------------------|-------------------|-----------|
| 事業の結果 | | | |
| 実施項目 | 17年度 回数など (単位) | 18年度 回数など (単位) | 回数など (単位) |
| 政務調査費交付議員数 | 43 人 | 24 人 | |
| 委員会先進地視察実施箇所数 | 9 箇所 | 10 箇所 | |
| 委員会視察参加者数 | 50 人 | 36 人 | |
| 議会図書購入数 | 23 冊 | 15 冊 | |

| | | | | | | | | |
|----------------|-------|-------|--------|----|--------|-------|--------|--|
| 事業費 (単位：千円) | 事業費 | | 財源 | | 事業費 | | 財源 | |
| | 直接事業費 | 5,500 | 国庫補助金等 | | 直接事業費 | 7,208 | 国庫補助金等 | |
| | 人件費 | 4,255 | 受益者負担 | | 人件費 | 3,266 | 受益者負担 | |
| | 市債 | | 一般財源等 | | 市債 | | 一般財源等 | |
| 合計 | 9,755 | 一般財源等 | 9,755 | 合計 | 10,474 | 一般財源等 | 10,474 | |
| 合計 | 0 | 一般財源等 | 0 | 合計 | 0 | 一般財源等 | 0 | |

| | | | |
|------|-----------|---------------|---------------|
| 結果指標 | 結果指標名 | 政務調査費交付議員数 | |
| | 結果指標量 | 43.0 | 24.0 |
| | 単位 | 人 | 人 |
| | 対前年比 | - | 55.81% |
| 結果指標 | 活動にかかるコスト | 2,576,160 円 | 4,674,121 円 |
| | 単位当たりコスト | 59,911 円 | 194,755 円 |
| | 結果指標名 | 委員会先進地視察実施箇所数 | 委員会先進地視察実施箇所数 |
| | 結果指標量 | 9 | 10 |
| 結果指標 | 単位 | 箇所 | 箇所 |
| | 対前年比 | - | 111.11% |
| | 活動にかかるコスト | 2,455,620 円 | 2,122,060 円 |
| | 単位当たりコスト | 272,847 円 | 212,206 円 |

| | |
|-------------------|---|
| 事業の成果 | |
| どのような成果を得ようとしているか | 住民自治の確立と地方分権時代に即した市政の実現には、議員の政策形成能力の向上が不可欠であり、その上で政務調査活動は必須のものとなっていることから、それを促進させるため一部を公費負担している。 |
| 成果指標名 | 議員政務調査費補助率 |
| 式又は説明 | 政務調査費交付額 議員からの政務調査費収支報告の支出総額 (議員の政務調査活動に対する公費の補助率を確認することで、適正な補助限度額を探る。) |
| 成果指標量 | 17年度 63.0% 18年度 93.7% |
| 到達目標値 | 60% 到達目標年度 H22 |

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

| | | | |
|----------------|--|--|--|
| 事務事業の評価 | | (平成18年度事業) | |
| 目的・対象・内容の妥当性評価 | 目的の妥当性 | <input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である (関係法令等) | 妥当性評価<A~E> A 課題認識 |
| | 対象の妥当性 | <input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である | 地方分権の進展に対応した地方議会の活性化が必要であり、議会、委員会等の審査能力の強化は不可欠であり、議員の調査活動基盤を充実させ政策形成能力の向上を図るため、調査研究に係る助成が制度化されている。 その中で、備前市議会が議員立法で制定した政務調査費交付条例や施行規則、議会規程は全国で最先端の透明性を確保している。 |
| | 市民ニーズの妥当性 | <input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である | |
| 市の関与の妥当性 | <input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である | | |
| 効率性の評価 | コストの効率化 | <input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である | 効率性評価<A~E> B 課題認識 |
| | 手段の最適化 | <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている | 補助限度額が変更されたため事業費は増加しているが、議員の政務調査費に対する認識は、以前より格段に向上しており、効果的な補助制度となっている。 政務調査費の交付は前渡により完了精算の方法をとっているが、完了後の実績による補助金交付の方法も検討すべき。 |
| | 職場の効率化 | <input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input checked="" type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について職員の見解・要望が反映されやすい | |
| 目的達成度 | <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している | 有効性評価<A~E> B 課題認識 | |
| 有効性の評価 | 成果向上の可能性 | <input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある | 条例制定が9月であり、政務調査期間が限られていたこともあり、活動がやや低調であったといえる。新年度では活発な活動を期待する。 |
| | 市民参画度 | <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている | |

| | | |
|--|---------------------------------------|------------|
| 平成19年度の状況 | | 説明 |
| <input type="checkbox"/> 重点化している | <input type="checkbox"/> 休止している | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している | <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している | |
| <input type="checkbox"/> 見直し継続している | <input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了 | |
| 全国でも屈指の制度により運用されており、議員25人の内23人から申請を受け補助金を交付している。ただし、議会内に会派制を導入することで検討が進んでおり、それに合わせ政務調査費の制度改正が必要となっている。 | | |
| 目標値 | 結果指標量 23人 | 結果指標量 10箇所 |
| | 成果指標量 70% | |

| | | |
|------|--|--------------------|
| 総合評価 | 地方議員の調査活動基盤の充実のため、政務調査費の助成制度は必要なものであるが、運用を誤った場合「第二報酬」との批判が出る。備前市議会が制定した条例等は、政務調査活動の完全公開により、全国屈指の透明性を確保している。今後、活動費が補助限度額を大きく上回るような活発な活動を期待する。 | 評価区分 <A~E> B |
|------|--|--------------------|

| | | | |
|--------------|---|--|---------------------------------------|
| 平成20年度以降の方向性 | <input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する | <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する | <input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 |
|--------------|---|--|---------------------------------------|

| | | | |
|---------------|---|--------|--|
| 平成20年度以降の改善事項 | | | |
| 評価の視点 | 改善内容 | 改善時期 | 改善により期待される効果 |
| 効率性 | 政務調査費の交付は前渡により完了精算の方法をとっているが、完了後の実績による補助金交付の方法を検討 | H19~21 | 政務調査活動の活性化を目指す補助金であるので、前渡によりノルマを果たす手法より、交付決定した事業の実績を精査した上で適正額を補助する方が、活動が活性化し、補助金もより適正に運用できる。 |